

4月15日(月)

静まることの大切さ

聖書朗読 マルコ 6:30~34

さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。 マルコ 1:35

ケンタッキー州モンティチェロを走る高速道路沿いに、教会堂の模型のようなモニュメントが置かれている所があります。この模型は中々良く出来ていて、屋根は尖塔になっており、内部には座席や説教壇もあります。しかし一番興味深いことは、大きな看板も取り付けられており、そこには「立ち止まり、静まって、祈りなさい」と書かれていることです。

この看板のメッセージは、私の心に何かを訴えていたのですが、ほとんどの場合、私はこのメッセージをきちんと心に刻むことは出来ませんでした。「祈りなさい」というメッセージは、私もいつも大切にしています。しかし「立ち止まり、静まって」という部分は、(その重要性は分かるのですが)心に刻み実行することは、今までほとんどなかったのです。いつも仕事やプライベートで忙しいからです。このジレンマは、私以外の多くの方も、同様に感じているのではないのでしょうか。

ある人は「忙しさのために身を滅ぼす前に、一旦立ち止まりなさい」と言ったそうです。特にキリスト者にとって、一旦立ち止まることは大切なことです。イエス様さえ、しばしばお一人になって祈りの時間を持たれています。それはイエス様が、多忙さに潜む危険をよくご存知だったからではないのでしょうか(マルコ6:30~32)。冒頭に触れました教会の模型に取り付けられた看板のメッセージは、私たちにとても大切なことを示唆しているように思います。

讃美歌 295

祈り 神様、立ち止まり、祈ることの大切さを思い起こさせて下さい。
イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ケニー・ウェストモーランド
テネシー州セリーナ

今日のカ

2019年4月15日~4月21日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

4月16日(火)

大切なことをみきわめる

聖書朗読 マルコ 7：14～23

私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。わが岩、
わが贖い主、主よ。 詩編 19：14

マルコ7章でイエス様が話されたことは、現代社会で流行していることの問題点と重ねて考えることが出来ます。こんにち多くの人が、美容や健康のために何を食べたらよいか、飲んだらよいか、と言ったことを必要以上に気にしています。アロマセラピーが人気を集め、一日を乗り切るための栄養ドリンクを大勢の人々が買って飲んでいます。ダイエット食品やサプリメントなども人気です。

こうした美容や健康のための特別な食べ物や飲み物が大人気であるということは、こんにち多くの人が、体が健やかであることを非常に重視していることの現れと言えます。しかし、そのことに気を遣いすぎるあまりに、何かさらに大切なことを見失ってはいないでしょうか。パリサイ人や律法学者たちは、一番大切なことを見失っていたのですが、もしかしたら、私たちも同じかもしれません。

パリサイ人や律法学者たちが重んじていたのは、律法に照らし合わせて身をきよく保つことでした。こんにちの私たちも、身体を良い状態に保つことを重視します。しかし本日の聖書朗読箇所ではイエス様は、私たちの魂をきよく保つことが、外面的なきよさを保つことよりもより大切であることを教えておられます。イエス様は弟子たちに、人は食べ物によって汚れるのではなく、心から出る悪い考えなどによって汚れることを教えられました。私たちにあって、身体を大切にすることは勿論重要ではありますが、それよりもさらに重要なことは、私たちの心がきよくあることではないでしょうか。私たちの心は、神様へと向けられているでしょうか。私たちの心がきよく保たれるためには、御言葉の学びは有益です。そしてきよい心は、正しい行いへと導いてくれます。御言葉の学びや奉仕等を通して神様との繋がりを深め、私たちの(身体だけでなく)心も神様に整えて頂きましょう。

讃美歌 310

祈り 神様、何が重要なことであるのか、バランスを取りながら判断することが出来ますようお助け下さい。身体を良い状態で保つことも大切なことである一方、それ以上に、御言葉によって魂が養われることはさらに重要なことです。忙しい日々の中で、本当に大切にすべきことを見失わないよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

シャロン・フォスター
テネシー州マキューエン

4月17日(水)

私たちは遣わされている

聖書朗読 マルコ 9：14～27

互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。
ガラテヤ 6：2

イエス様は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて高い山へ行かれ、彼らの目の前で御姿を変えられました。イエス様が栄光の姿に変わる様子を目撃するという体験は、まるで天国にいるかのような、素晴らしい体験だったことでしょう。恐らく、彼らはずっとそこに留まり、この天国のような体験に浸り続けたいと思ったに違いありません。しかし、彼らは麓へと戻って行きました。

麓では、混乱状態とも言えるような状況になっていました。残っていた9人の弟子たちが、律法学者たちと激しく議論していたのです。群衆も集まっていました。イエス様が、何を議論しているのかお尋ねになり、群衆の一人が次のように話しました。息子が霊に取りつかれているため、弟子たちにその霊を息子から追い出すようお願いしましたが、出来なかったと。イエス様は弟子たちの不信仰を嘆かれ、そして霊を追い出して下さいました。

弟子たちが山の上で天国にいるかのような素晴らしい体験をしたように、私たちも霊的に素晴らしい体験をさせて頂くことがあると思います。しかし、主と弟子たちが山を下り麓に戻ったように、私たちも(様々な問題がある)それぞれの持ち場へ遣わされています。本日の聖書箇所では、麓では様々な混乱が起こっていたように、私たちが遣わされているこの社会にも、たくさん問題が山積しています。しかし、そのような状況にこそ、私たちの(神を知るものとしての)使命があります。

神様が私たちと共に居て下さるのは、私たちに平安と癒しを与えるためだけではありません。私たち自身の平安や癒しに加え、(私たちが用いられて)他者にも平安と癒しが分かち合われるためです。神様が私たちと共に居て下さるとき、私たちは神より頂いている霊的な恵みを分かち合う器として強められ、用いられるのです。私たちは、人々に仕え、混乱があるところに平安をもたらす器として用いられながら、イエス様にお従いして参りましょう。

讃美歌 228

祈り 神様、あなたの御力と愛を分かち合えるようお導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リチャード・アディ
オレゴン州グレシャム

4月18日 (木)

喜びの音

聖書朗読 マルコ 10:13~16

全地よ。主に喜び叫べ。大声で叫び、喜び歌い、ほめ歌を歌え。 詩編 98:4

最近読んだ記事に、教会での赤ちゃんの泣き声は「喜びの音」と説明されていました。その通りだと思いました。先週の礼拝中に泣き叫んでいた子が居たのを思い出しました。自分の子供たちが同じような状況だった時、心配し、泣き声がどれだけ周りの人の邪魔になっているか心配したものです。しかし、他人の子の泣き声だと、心配することなく、ただ「喜びの音」だと私は感じます。

当然のことながら、赤ちゃんも神様の創造物です。その赤ちゃんが教会へ来ると言うのは素晴らしいことではないでしょうか。その家族は、彼らの信仰ゆえに、赤ちゃんを教会へ連れて来ることを真剣に考え、私たちと一緒に礼拝に参加しているのです。このような状況で礼拝に参加している赤ちゃんを、私たちは優しく迎え入れるべきではないでしょうか。やがて赤ちゃんは成長し、賛美し、奉仕にも参加するようになるでしょう。それは私たちが（先に天国に行き）居なくなった後かもしれません。教会の家族とはなんと素晴らしいものでしょう。

あなたの家族にも、ぐずる赤ちゃんがいますか？ もしそうだとしたら、赤ちゃんを連れて礼拝に参加することは決して簡単なことではないことを、私たちは自分たちの経験を通して知っています。ですから、赤ちゃんを連れていらして下さるご両親を見る度に、多くの人々はむしろ励まされているのです。つまり、教会に赤ちゃんの頃から通う姿を見るのは、私たちにとって励ましとなっているのです。

讃美歌 461

祈り お父様、人生のどの段階においても愛して下さり、イエス様に倣い成長することを助けて下さり、ありがとうございます。私たちも互いに愛をもって接することが出来るようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

デイビッド・パウンズ
テキサス州アマリロ

4月19日 (金)

神の御力

聖書朗読 マルコ 12:13~27

私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも、信じるすべての人にとって救いを得させる神の力です。 ローマ 1:16

サドカイ人はいつもイエス様をトラブルに巻き込もうとしていました。彼らは自分たちが律法にいかにか詳しいかを誇り、律法に関する難しい問いをわざとイエス様に投げかけ、あわよくばイエス様を窮地に陥れようと企んでいました。しかし、当然のことながらそのようなことは出来ませんでした。またイエス様は、サドカイ人たちの律法の理解が根本的に間違っていることをよくご存知でしたが、サドカイ人たちはそのことに気付いていませんでした。

サドカイ人たちは、律法の表面的な解釈にだけ一生懸命になっていましたが、イエス様は律法を与えて下さった父なる神にいつも心を向けておられました。ですから、イエス様の宣教活動では、貧しい人々に積極的に接することを通して、父なる神の慈愛を人々に証しされたのです。さらに、イエス様は神様の大きい御力についても、人々に示されました。その最大の例は、イエス様の復活です。今日の箇所では、「神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です」と言われながら、神に繋がる者には復活の希望があることを教えておられます。復活の希望は、キリスト者にとって大なる慰めであり、神の力を証明するものであります。

私たちにとりましても、神の御言葉を学ぶことはとても重要なことでもあります。しかし、サドカイ人たちが陥ってしまったように、言葉の表面的な解釈だけに留まってはなりません。御言葉を通し、神のご性質や御力を学ぶ必要があるのです。

私たちの希望は、何よりもイエス様の復活があるからこそ確かにされている、ということ、改めて思い起こしましょう。

讃美歌 162

祈り 神様、御名を賛美します。一人子であるイエス様を与えて下さり、またイエス様の復活に感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リチャード・トンブソン
テネシー州ナッシュビル

4月20日(土)

異なる視点

聖書朗読 マルコ 14:1~9

この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用意にと、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれたのです。 マルコ 14:8

48年前、オタ・アンダーズという人物は、地面に1セントのコイン(日本の1円玉に相当)が落ちているのを見かけました。彼は、それが神様からの賜物だと考えて、そのコインを瓶に入れて大切に保管しました(訳注:アメリカでは、道ばたに落ちているコインを警察に届ける習慣はなく、発見者の判断に委ねられています)。その日以降、彼は1セントのコインを見つける度に祈り、そのコインを大切に瓶に入れて保管しました。さらに彼は、お財布に入っている1セントのコインも(使わずに)瓶に入れて貯めることにしました。その後大分経ってから、彼は歯の手術が必要になったのですが、彼が貯め続けた1セントのコインで手術代を賄うことが出来ました。その際、彼は1セントのコインを入れたいくつもの瓶を銀行に持って行ったのですが、全てのコインを数えるのに5時間かかり、総額5000ドル以上もありました。

このエピソードは、オタが1セントのコインを「ただの1セント」と軽く扱わず、大切にしたいという点で、私たちに示唆を与えているように思います。つまり、見方を変えることの大切さを私たちに示唆しているのではないのでしょうか。マルコ14章に出てくる高価なナルド油をイエス様の頭に注いだ女性にも、同様のことが言えると思います。彼女は周りの人々とは異なる視点を持っていたのです。周りの人々は香油を無駄にしたと思い、彼女を厳しく責めました。しかし彼女は、香油を主に対して彼女が出来る最善の捧げものとしたのです。そしてイエス様は、彼女の主に対する愛を見られました。私たちは、様々なものを所有していると思います。しかし私たちの所有物は、全て神様から与えられているものなのです。そのような視点から、私たちに与えられている所有物をどのように用いるべきか考えてみませんか。本日の箇所で香油を注いだ彼女は、彼女に出来る最善をしたのです。私たちが彼女に倣いたいものです。

讃美歌 391

祈り 親愛なる神様、様々な賜物を下さり、ありがとうございます。物質主義のこの世にあって、賜物を賢く使い、主を証することが出来ますようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アンドリュー・フィリップス
テネシー州コロンビア

4月21日(日)

約束を果たして下さる神

聖書朗読 ルカ 1:26~38

神にとって不可能なことは一つもありません。

ルカ 1:37

もし神様が「私はこれを成し遂げる」と仰ったなら、そのことは必ず成就します。私たちにあって、それがどんなに信じ難いことでもあっても、です。本日の聖書朗読箇所では、高齢で不妊と言われていたエリザベツが子供を宿し、処女であるマリヤが身ごもる出来事が触れられています。これは、普通の考えでは信じるのがかなり難しいことと言えます。しかし、これらのことは全能なる神様によって、すべて実現しました。神様に不可能なことは一つもないのです。

私たち人間の感覚からすると不可能だと思われることが、全能なる神様により成就したという記録は、聖書の様々な箇所に記されています。イスラエルの民に対しても、神様は約束を果たされました(ヨシュア23:14)。そして神様は私たちに對しても「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」と約束して下さっており(ヘブル13:5)、だからこそ、私たちが何らかの困難と出遭っても、脱出の道をも備えて下さるのです(Iコリント10:13)。また神様は、私たちが必要なものは全て与えて下さり(Iペテロ1:3~4)、主と同じ姿へ変えて下さるとも約束して下さっています(IIコリント3:18)。エリザベツやマリヤのように、私たちも、約束を果たして下さる神様に期待し、応答して参りましょう。

神は人間ではなく、偽りを言うことがない。

人の子ではなく、悔いることがない。

神は言われたことを、なさらないだろうか。

約束されたことを成し遂げられないだろうか。

(民数記23:19)

讃美歌 456

祈り 神様、どうぞ私をあなたに似るものとして下さい。あなたの約束は必ず果たされることに感謝いたします。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州グランブリー